

## 「安全な水を世界中に」

安中市立松井田中学校 3年 黛 菜々海

先日のことである。2年前から育てていたマリモが、瓶の中で茶色くガビガビに干からびていた。小さな丸い瓶には、入っていなければならないはずの水が一滴も入っていなかったのだ。2年前、広告で見て一目惚れした私は、妹と一つずつほしいとおねだりして手に入れたマリモだ。それぞれに名前をつけて、最初の頃は毎日観察し、水が減っていたら丁寧に補充していた。言い訳になってしまうが、やること、やりたいことがたくさんあって、最近マリモの存在すら忘れていたのだった。コップ一杯分ほどの小さな瓶の中で、多いとは言えない水であっても、マリモにとってはまさに命の水だったのだ。

私たち人間の生活ではどうか。顔を洗う、歯磨きをする、トイレや洗濯など、飲料としてだけでなく、たくさんの水を私たちは日々消費しているのだ。特に、コロナ禍となってからは、手洗いの励行がかつてないほど叫ばれるようになった。そして、ワクチンを接種した際には、とにかく水を飲むようにと母に言われた。発熱時の水分補給は、干からびた体を生き返らせる効果が抜群なのだそうだ。実際、固形物は受け付けない発熱時に、水はごくごく飲んで体が楽になった記憶がある。

このように、私たちの生活に欠くことのできない水であるが、その水がなくなってしまうたらと想像したことはあるだろうか。

例えば、オーストラリアのある地域では雨水をためて洗濯に使っているそうだ。降水量が少ない上に、乾燥していることから慢性的な水不足なのだ。雨水をためるといふ工夫で、水資源を大切にしていることがわかる。サハラ砂漠以南のアフリカ諸国では、約三百万人もの子供が毎日長い道のりを歩いて、池や湖、井戸まで水を汲みに行っているという。中には八時間以上、片道四キロかけて水を汲みに行っている子供もいる。そんな子どもたちは、水を汲むだけで一日の生活時間のほとんどを費やしていて、教育を受ける時間がない。私たちが学校で当然のように、体育の授業後に手を洗い、うがいをしている。その瞬間も家族の生活水を求めて長距離を歩く子どもたちがいるということを、私たちはリアルに感じる必要があるだろう。水資源を輸入に頼っている国もある。シンガポールでは、自国で水を得ることが難しく、隣のマレーシアから水を買っている。外国から生活用水を買うとなれば、水の使い方に慎重にならざるを得ないだろう。私たち日本人にはない発想かもしれない。日本は島国ゆえに、流れている川はすべて自国の川となる。しかし、世界に

はいくつかの国にまたがって流れている川、すなわち国際河川が二百六十もあり、そこで水の奪い合いが起こっていることも日本人はあまり知らないのではないか。例えば、アフリカにあるナイル川は、エジプト、スーダン、エチオピアなど十か国にまたがっている。上流の国で川の水を大量に使うと、下流の国では水が不足してしまう。上流の国が水源を汚すと、下流の国では清潔な水が使えず生活に大きな支障が生じるのだ。このようなことから「水戦争」とよばれる国同士の摩擦が国際問題になっているのだ。

国は違えど、同じ地球に住む地球人として、私たち日本人も水問題に取り組んでいかなければならないだろう。SDGsの六番に、「安全な水とトイレを世界中に」とある。日本の企業も実践に乗り出していることを知り、頼もしく、そして日本人として誇りに感じる。例えば、サントリーホールディングスは、安全な水を生み出す豊かな自然を守る取り組みをすでに全国二十一か所で行っているそうだ。

私たち個人でも、水を大切に思い、守っていく方法はあるはずだ。まずは、水がある生活を当たり前と思わないことだ。さらに、蛇口の水は、山や森から流れてきていることに思いをめぐらせれば、山や森の環境を守りたいと思うだろう。そして、日々の生活の中でも、顔を洗うとき、歯磨きをするとき、無駄な使い方をしていないかと意識するだけでも違うだろう。暑くなって、一杯の水をがぶ飲みするとき、ほんの少しでも、ありがたいという気持ちが頭をよぎるような生活をしていきたいと思う。

ガビガビに干からびてしまったマリモの続きだが、瓶いっぱいの水を与えて三日ほどで、緑色の柔らかそうなふわふわがよみがえってきた。まさに命の水だった。



### 第45回「少年の主張」安中市大会

日 7月5日(水)

時 受付 午後1時30分

開始 午後2時

場 松井田文化会館 大ホール

発表者 市内中学生代表12人

※優秀者3人は西部地区大会に推薦します

対 当日の受付でどなたでも無料で入場できます。

主催 教育委員会、青少年育成推進員連絡協議会、青少年健全育成会議

問 生涯学習課(☎内線2242)

応募・申込方法  
申込先  
問合せ先  
電話  
FAX  
電子メール  
HP  
その他

日程  
時間  
期間  
会場・場所  
対象・資格  
内容  
定員  
料金・費用  
持参物  
締切